

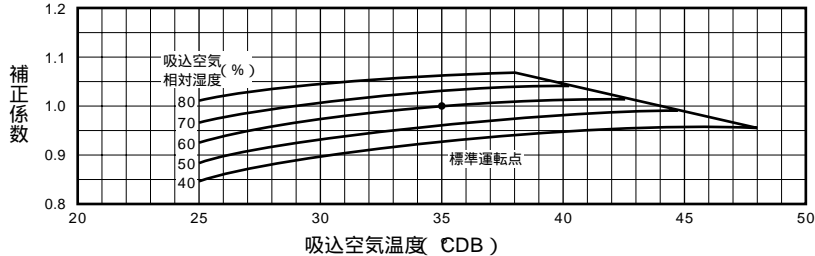
## 5.2.10 運転特性

### (1) 能力特性

SPUJ80, 112, 140

ユニット能力 = 定格能力 × 吸込空気の補正係数 × 配管距離による補正係数 × 風量による補正係数

#### (a) 吸込空気の補正係数



#### (b) 配管距離による補正係数

(50/60Hz)

相当長(m)	5	10	15	20	25	30	35
形式							
SPUJ80	1.0	0.99	0.98/0.975	0.97/0.965	0.96/0.95	0.95/0.94	0.94/0.925
SPUJ112	1.0	0.995/0.99	0.985/0.98	0.98/0.97	0.97/0.96	0.965/0.95	0.955/0.94
SPUJ140	1.0	0.99/0.985	0.975/0.97	0.965/0.955	0.95/0.94	0.94/0.925	0.925/0.91

注(1) 相当長は下式により求めてください。但し相当長は35m以内となるよう計画してください。

SPUJ80 相当長 = 実長 × (0.1 × 途中配管のベンド数)

SPUJ112, 140 相当長 = 実長 × (0.15 × 途中配管のベンド数)

室内・室外ユニットの高さにより配管距離補正係数の値より下記調整係数を引いてください。

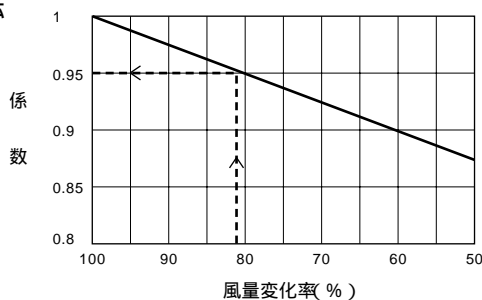
但し、室外ユニットが室内ユニットより下の場合のみ適用してください。

室内・室外ユニットの高さ方向の差(m)	5	10	15
調整係数	0.01	0.02	0.03

#### (c) 風量補正係数

##### 延長ダクトによる風量補正係数

・強運転



注(1) 但し弱運転の場合は左表の0.95になります。

(2) 風量変化率は363ページをご覧ください。

#### (d) 特性表の見方

##### [例題]

SPUJ80：吸込空気温度30 DB，相対湿度60%，配管相当長30m，高低差10m（室外ユニットが下），強運転，ダクト長さ10mの場合の能力の求め方は，

1) 吸込空気の補正係数表で吸込温度（30 DB）と相対湿度（60%）の交点を求めます。

2) その交点より吸込空気温度と水平に左側へ線を引き係数との交点を求めます。

3) 係数は0.97となります。

4) 配管距離補正係数を求めます。

50Hz：0.95 - 0.02 = 0.93  
60Hz：0.94 - 0.02 = 0.92 } となります。

5) 風量補正係数を求めます。

但しダクト長さの異なる場合は平均長さで求めます。

風量変化率：82%，係数：0.95

6) 次に標準能力（仕様の項参照）と係数を掛けたものが求める能力となります。

50Hz：7.1kW × 0.97 × 0.93 × 0.95 = 6.08kW

60Hz：8.0kW × 0.97 × 0.92 × 0.95 = 6.78kW